

大ロンドン市（Greater London Authority）：データ連携基盤

都市概要

国名/都市名	イギリス(イングランド)/大ロンドン市 (GLA)
人口	大ロンドン市(GLA) : 887万人 (2022年時点)
行政区分上の位置づけ	大都市圏
各種デジタルランキング上の位置づけ	「国連電子政府調査2024におけるLOSI(Local Online Service Index)」でロンドンが9位

都市の特徴

- 一般的にロンドンと呼ばれる地域は大ロンドン市 (Greater London Authority, GLA) であり、シティ・オブ・ロンドンと32の特別区で構成されている。
- 基礎自治体としてのシティ・オブ・ロンドンは2.6km²、人口8千人ほどの小さな地域であるが、世界の金融センターと呼ばれ、シティ・オブ・ロンドン市長が外国を訪問し事実上の外交官の役割を担うなどシティ・オブ・ロンドンの格式は高く特別な位置づけをされている。
- 大ロンドン市は圏内の交通、経済開発、警察、消防などの予算策定権や人事権を担っている。

出典 : https://www.clair.or.jp/j/forum/series/pdf/h20_04.pdf



大ロンドン市（Greater London Authority）：データ連携基盤

事例概要

取組概要

「Data for London Library」プロジェクト

- 「Data for London Library」は大ロンドン市全体のデータ共有と利用をさらに簡素化し、都市を改善し、住民に利益をもたらすことを目的としたデータ連携基盤である。2010年公開のオープンデータポータル「London Datastore」よりも高度な機能を提供する。段階的に機能をリリース予定であり、第一弾は2024年後半に実施。
- 「Data for London Library」は、以下の機能を提供する。
 - 発見性の向上：都市データを一括検索できる単一プラットフォーム
 - データ共有の改善：都市データの簡便かつ安全な共有
 - コラボレーションの促進：都市データを活用して主要課題に取り組むためのデータキュレーションと活用

汎ロンドンデータ共有契約プロジェクト

- 「Data for London Library」プロジェクトにおける組織間でのデータ共有の際のルール形成を支える取組として、ロンドン技術革新局（LOTI）が行っている「汎ロンドンデータ共有契約プロジェクト」がある。

LONDON DATASTORE



Loti

沿革

2010年：オープンデータポータルサイトである「ロンドン データストア」を公開

2020年：汎ロンドンデータ共有契約プロジェクトが開始

2024年：新たなデータ連携基盤である「Data for London Library」の機能リリース開始

大ロンドン市（Greater London Authority）：データ連携基盤

調査内容（「Data for London Library」プロジェクト①）

概要

- 「Data for London Library」は大ロンドン市全体のデータ共有と利用をさらに簡素化し、都市を改善し、住民に利益をもたらすことを目的としたデータ連携基盤である。2010年公開のオープンデータポータル「London Datastore」よりも高度な機能を提供する。
- 「Data for London Library」は中央集権型ではなくフェデレーテッド（分散型）モデルとして運用される。これは、全てのデータを1カ所に保管するのではなく、接続された複数のデータソースからアクセスする仕組みである。大ロンドン市がリーダーシップを取り、以下の役割を担う。
 - データセットの追加
 - 標準とデータ品質の開発
 - 利用に関する倫理の確立
 - 市民参加の促進

主な特徴

- 「Data for London Library」は、以下の機能を提供する。
 - 発見性の向上：都市データを一括検索できる単一プラットフォーム
 - データ共有の改善：都市データの簡便かつ安全な共有
 - コラボレーションの促進：都市データを活用して主要課題に取り組むためのデータキュレーションと活用

参考 出典

- 概要/主な特徴、Mediumの記事、<https://chiefdigitalofficer4london.medium.com/towards-a-new-data-for-london-library-d95a062f30d9>、2025-03-19
- 概要、UKAuthorityの記事、<https://www.ukauthority.com/articles/first-release-of-london-data-library-set-for-later-this-year/>、2025-03-19

大ロンドン市（Greater London Authority）：データ連携基盤

調査内容（「Data for London Library」プロジェクト②）

開発プロセス

ユーザーテストの実施

- 開発過程においては、ユーザー中心の設計を通じ、プラットフォームを洗練させることを重視。そのため、ユーザーの目標・ニーズ・タスクを深く理解するためのユーザーテストを実施した。ユーザーテストは、データコミュニティ、ソフトウェア開発者、データプロジェクトの所有者、その他ユーザーと様々なレベルで実施。この結果、ロンドン内の組織間の縦割りにより都市データの共有ができておらず、そのため、利用者は適切なパートナーを特定し、彼らが持っている可能性のあるデータセットを推測しなければならないため、イノベーションが阻害されていることが確認された。

各組織が持つデータセットカタログの整理

- そのため、ロンドン全土に保持されている多様なデータセットを整理するカタログを作成し、データユーザーがプロジェクトに必要なデータを見つけられるようにした。これには、大ロンドン市内のプロジェクトに関連するオープンデータソースや、公共部門やパートナー全体のプライベートデータセットのメタデータが含まれる。これにより、ユーザーはデータの説明、公開組織、及びライセンスの種類で検索できるため、ユーザーは問題に適したデータセットに絞り込むことができるようになる。

今後の展開

- 2024年後半に第一弾の機能リリースを実施。この段階では、現在ある「London Datastore」などのデータを対象に改善された検索機能を提供。
- その後、ロンドンの地方自治体や関連機関、大学などにロードマップを通じて働きかけ、各機関にデータカタログを登録させることで、対象範囲を拡大し、多様なイノベーションを促進できる体制を整える。
- 次のフェーズでは、現在の「London Datastore」を基盤として、データの共有、アクセス、活用の向上に焦点を当てる。このフェーズでは、以下の内容をサポートする。
 - 複雑なデータ共有の取り決め
 - 個人データの保存とセキュリティ
 - IoT及びストリーミングデータの管理

参考 出典

- 開発プロセス、Mediumの記事、<https://chiefdigitalofficer4london.medium.com/towards-a-new-data-for-london-library-d95a062f30d9>、2025-03-19

大ロンドン市（Greater London Authority）：データ連携基盤

調査内容（汎ロンドンデータ共有契約プロジェクト）

所掌組織 ロンドン技術革新局（LOTI, London Office of Technology and Innovation）

「Data for London Library」プロジェクトにおける組織間でのデータ共有の際のルール形成を支える取組として、LOTIが行っている「汎ロンドンデータ共有契約プロジェクト」がある。

背景

これまで市内の自治体間などでの個人データの共有にあたっては、各組織間の個別のデータ連携協定を結び実施していたが、手続きが煩雑であるとともに専門家によるチェックが漏れてしまう恐れがあった。そのため、各区や警察などで統一したデータ共有の運用ルール（DSA）を定めた。DSAは分野ごと（教育や医療、犯罪対策など）に作成されている。

取組概要

データ共有の運用ルール（DSA）策定の流れ

- 分野別にDSA作成のワーキンググループを設置。ワーキンググループはロンドン特別区の情報ガバナンスの専門家が主導し、公共部門の職務、警察の手続きと犯罪防止、情報ガバナンス、及び法律を専門とする専門家が組み込まれている。
- ワーキンググループのメンバーは、DSA とデータ保護影響評価（DPIA）を作成する。複数の会議とレビュー期間が設定される。ワーキンググループは、契約が法的及び事実上正しいことを確認し、データ共有と作業の法的根拠の正当性を正確に説明する。その後、最終版が公開され、全ての関係者が署名することで完了する。

予算 LOTIの予算は、各自治区からの年間会費やGLA及びロンドン市議会からの助成金で賄われている。

参考 出典

- 取組概要、LOTIの公式HP、<https://loti.london/projects/pan-london-dsa-project/>、2025-03-19

大ロンドン市（Greater London Authority）：データ連携基盤

調査内容（データ活用事例）

データ活用
事例

■ チャイルド・ヘルス・インフォメーション・サービス(CHIS)

- CHISは国民保健サービス省（NHS）が委託したサービスで、指定された地域の子どもに関する、様々な組織からのデータを1つのチャイルド・ヘルス・レコードにまとめる役割を担っている。
- 0歳から19歳までの全ての乳児、子供、若年成人及び特別な教育的ニーズを持つ人々のために26歳までの記録が保管されている。
- CHISは、公衆衛生チーム、ヘルスビジター、学校看護、予防接種チームなどの組織からデータを受け取り、病気の発生を防ぐための予防接種率の向上、健康な子供のプログラムのサポート、子供の公衆衛生サービスの提供の支援、脆弱な子供の保護を支援。
- 予防接種目的での生徒データの合法的な共有を確立するためにデータ共有の枠組みを活用している。

■ 交通事故リスクが高い場所の特定（ロンドン交通局とメルセデス・ベンツとの連携によるサービス）

概要

メルセデス・ベンツとロンドン交通局が提携し、車をセンサーとして使用し交通事故リスクの高い場所を特定するデジタルツールを作成した。

開発プロセス

1. ブレインストーミングとソリューション設計

ロンドンの交通安全に関する現在の課題について両者が議論し、可能な解決策をブレインストーミングした。

2. アルゴリズムの開発

データソースと既存の交通安全モデルを一致させることにより、危険な場所を特定するためのデータに基づくモデルを段階的に開発。メルセデス・ベンツの運転支援システムからの匿名化された車両データに、ロンドン交通局からのインフラデータを連携し強化。

3. オンサイト検証

アルゴリズムで特定された事故リスクが高い場所への現地訪問と、過去の事故データの分析により、アルゴリズムを検証し、データを充実。2年間の開発フェーズは2021年に完了。

参考
出典

- チャイルド・ヘルス・インフォメーション・サービス(CHIS)、LOTI 公式HP、<https://loti.london/resources/advice-on-sharing-pupil-information-for-vaccinations-in-schools/>、2025-03-19
- ロンドン交通局とメルセデス・ベンツの事例、メルセデス・ベンツ 公式HP、<https://developer.mercedes-benz.com/success-stories/transportforlondon>、2025-03-19